

その他

学童期の子どもを対象としたプレパレーションの検討	大阪府立母子保健総合医療センター 岡田朋彦
BCR 入室中の子どもに対する保育の効果	兵庫県立こども病院 中村直子
血液・腫瘍疾患で入院経験のある者の入院体験の捉え方	千葉大学医学部 附属病院 宮川祐子
小児病棟における療養環境改善活動の現状と評価、課題	大阪市立大学医学部 附属病院 中島謙太郎
思春期の小児がん患児と親のコミュニケーション —患児の自己決定および病気に対する会話に焦点を当てて—	浜松医科大学医学部 看護学科 宮城島 恭子
がんの子どもに対する教員の認識 —地域に根ざした子どもの教育支援のために—	浜松医科大学医学部 看護学科 大見サキエ

〈ポスターセッション〉 (20 題)

家族看護 1

クリーンルームでの付き添いによる母親の身体的・精神的負担の実際と今後の課題	奈良県立医科大学 附属病院 宮城早苗
化学療法開始初期に不機嫌が長期に出現している児を持つ母親の思い	千葉県こども病院 山下玲子
母親の精神的安定が母子関係に与える影響 ～うつ傾向の母親と PBSCT を控えた幼児への介入を振り返って～	長野県立子ども 病院 鈴木孝枝
小児がんを克服し青年後期を迎えた小児がん経験者の社会生活に対する母親の願いと関わり	福島県立医科大学 看護学部 石井佳世子
小児がん療養中の学校に通う子供を支える家族への関り(インタビューにより家族の思いや考えの現状を把握する)	埼玉県立小児医療 センター 吉原一則

緩和ケア・ターミナルケア

口内炎による痛みを体験した患児の母親への支援の検討	群馬大学附属病院 新井香織
歯科との連携による口腔内トラブルの減少～患児・家族とともに口腔ケアに取り組むために～	兵庫県立こども 病院 杉山真由美
在宅ターミナルケアへの取り組み ～地域との連携をとおしての関わり～	杏林大学医学部 附属病院 安藤明代
外泊することを望まなくなったターミナル期の患児への援助 ～レクリエーションの効果について～	名古屋第二赤十字 病院 上野里恵
処置後にパニックをおこした幼児に対しての関わりを振り返る	自治医科大学附属 病院 安西典子

家族看護 2

家族参加型の看護計画を目指して —スタッフに浸透・実施していくために—	埼玉県立小児医療 センター 鎌奥昌子
乳児期に白血病を罹患した子どもをもつ父親の社会的役割の遂行とその支援	高崎健康福祉大学 看護学部 田邊美佐子
幼児の血友病患者の QOL とは？～多様化する情報の中にある母親への関わり～	群馬県立小児医療 センター 福本理英
両親への造血幹細胞移植前の看護支援方法 ～看護師への意識調査から評価～	茨城県立こども病院 富山千春
家族看護における小児がん病棟でのチームアプローチ ～一症例での経験を生かして～	国立がんセンター 中央病院 田中舞子

その他

告知後における小児がん患児の気持ちの変化 ～患児へのインタビューを通して～	呉医療センター 柳和美
アスペルガー症候群をもつ脳腫瘍患児へのケアの実際 —社会性を獲得させるために—	聖路加国際病院 伊藤愛
コンピューターグラフィックスを用いた骨髄穿刺の模擬体験ツールの開発報告 ～感性デザイン研究室との連携より～	北里大学病院 大瀬敦子
小児がんの子ども達のためのサマーキャンプ “Peer K/I Camp” の紹介	当事者の会「Peer」 藤田恵子
小児がん患児の支援機関との連携推進に向けた病院内教育機関の役割 ～個別の教育支援計画の導入と課題～	東京都立久留米 養護学校清瀬分室 佐野健一郎

第 38 回 SIOF (国際小児がん学会) の参加報告**

第 38 回国際小児がん学会は 9 月 18 日 (月) から 21 日 (木) の 4 日間、スイス、ジュネーブで開催されました。梶山先生のご尽力により、今回も学会の前に病院を訪問するコースが設置され、イギリスの病院とホスピスでの研修に 9 名が参加しました。また、日本からの SIOF 参加は 12 名 (ポスター発表のみ参加 1 名)、発表はポスター発表のみで 9 題でした。

UK における病院訪問コースの報告

国立小児病院 Great Ormond Street Hospital for Children (GOSH) で 2 日間、リチャードハウスで半日過ごし、多くの学びを得ることが出来ました。当初の予定では、ロイヤルビクトリア病院での 2 日間の研修も予定されておりましたが、病院の状況により中止になってしまい、大変残念でした。

GOSH での研修は、日本で以前小児専門看護師として

ご活躍され、現在は GOSH で看護師として働いていらっしゃる平田美香さんの案内による病院見学からスタートしました。美香さんには 2 日間の研修を通して大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。GOSH は、1852 年世界で最初のベッドをもった小児病院として開設され、病院の規模は日本の小児病院とあまり違いを感じない広さでしたが、壁の飾りや、プレイルームなどが子どもにとって心地よいことを一番に考えられていることが伝わってくるとても素敵な病院でした。

病院見学の後、「イギリスにおける小児がん看護」「在宅ケアと緩和ケア」「イギリスにおける小児がんの子どものケアに関する研究の実際」「病院における遊び」について専門的な役割を担っている看護師から講義を受けました。

2 日目は、「小児がんの子どもへの看護と緩和ケアに関する看護師教育」についても学ぶ機会を得、講義の後には GOSH の教育担当講師であり、King's Colledge London の招聘講師でもある Dr. Faith Gibson との質疑応答、意見交換が行われました。さらに、「病院の環境と家族へのサポート」「小児がんの子どものケアに関する他職種の役割-薬剤師の関わり-」「小児がんの子どもへのプリパレーションの実際」などに関して、他職種からの話を聞くことも出来ました。

リチャードハウスは、2002 年 12 月より Residential Unit がオープンした新しい、小児専門のホスピスです。現在イギリスには 44 の小児専門のホスピスがあります。

リチャードハウスは、ベッド数は 8 床ですが、訪問時は 4 床が使用されており、ケアの質を考えると入所者は 4 床までがよい、と話されていました。提供されているサービスは、「Day Care Service」「Residential Care (レスパイトケア・終末期ケア)」「Family Support Service」で、提供するサービスは、ホスピスによって若干異なっているようでした。(小川純子)

2006 SIOP NURSES MEETING 参加報告

9月18日(月) 途上国のナースたちのための教育プログラムと、出版社 Elsevier 主催の”Writing for Publication” のテーマのワークショップが行われました。SIOP Nurses Group 会長の Dr. Faith Gibson が講師で、研究の進め方と論文執筆について、Journal of European Oncology Nursing の投稿規程と各誌に掲載されたモデルとなる論文を提示しながらのわかりやすい

講演とディスカッションが行われました。

9月19日(火) 開会式では会長の Dr. Faith Gibson とスイスの準備委員長 Christiano 氏の歓迎の挨拶があり、英国の社会学者 Dr. Mary Dixon-Woods による”Understanding Experience of Childhood Cancer: A Fresh Perspective” のテーマによる基調講演が行われました。引き続き同テーマでの口演発表 3 題があり、有意義なディスカッションが行われました。午後は、国立ジュネーブ小児病院を訪問し、小児病棟や移植病棟を見学しました。

9月20日(水) 8時半からナースグループ・親の会・医師のジョイントセッションで”Listening and Understanding: Key Aspect of care” のテーマとくにスイスからの”Working together—Learning together” の報告は、“魂に届く”という感じの内容でした。小児がん看護において大切なことは何か、改めて考えさせられました。次にナースと医師のジョイントセッションで、“This house believes that advanced nursing practice roles are replacement physicians” のテーマのディベートでした。小児がん看護を専門とするナースの他に高度実践者 NP の教育を考え始めているヨーロッパの看護事情を垣間見た思いでした。その午後はポスターディスカッションで、発表された 19 題のポスターの中から 5 題が選ばれて 10 分間で PP を使って発表するというものでしたが、その 5 題のうち 4 題は日本からの発表でした。翌朝、看護のベストポスター賞の発表があり、群馬県立健康科学大学中村美和さんがこの栄誉ある賞を受けられました。午後はラウンドテーブル・ディスカッションで、11 のテーマに分かれてワークショップが行われました。

9月21日(木) 午前には口演が 1 群と医師とのジョイントセッション”Supportive Care” があり、マウスケアやカテーテルケア疼痛管理などの実験的研究のお報告がありました。ここでは医師からの貴重な意見やコメントがありましたが、医師の参加は少なかったことが残念なことでした。午後は、ナースのビジネス・ミーティングで、役員紹介、活動報告、今後の課題などが報告されました。各国の小児がん看護実践・研究グループとのリンクなどが課題とされました。その後、口演が 2 群あり閉会式となりました。楽しくまた課題も見えた SIOP 参加でした。

(梶山 祥子)



第3回日本小児がん看護研究会関東研修会

第3回日本小児がん看護研究会の関東地方研修会は、平成19年2月3日(土)に、神奈川県立こども医療センターにおいて下記の要領で開催いたします。講師は、聖路加国際病院小児科部長・副院長でいらっしゃる細谷亮太先生にお願いしております。また、パネルディスカッションでは、精神科医、小児専門看護師、小児がん経験者からもお話し頂く予定です。

看護・医療・福祉・教育関係者・小児がん経験者・ご家族などの多くの方の参加をお待ちしております。

第3回日本小児がん看護研究会関東研修会

テーマ：子どもたちへの病気の説明や告知

日時：平成19年2月3日(土)

13時～16時40分

会場：神奈川県立こども医療センター

参加費：会員2000円、非会員2500円

学生(大学院生を除く)・家族・当事者1000円

申し込み方法：葉書またはメール

葉書の宛先：〒231-8555

横浜市南区六ツ川2-138-4

神奈川県立こども医療センター 二川 美洋子

メールの宛先：kajiyama@cyber.ocn.ne.jp

梶山 祥子

第5回 日本小児がん看護研究会

このたび、第5回日本小児がん看護研究会を、平成19年12月14から16日にわたって仙台で開催させていただくことになりました。会場は青葉城のふもと、広瀬川のほとりにある仙台国際センターを予定しております。開催時期の仙台は、東北を代表する冬の風物詩「仙台光のページェント」が開催され、JR仙台駅から会場につながる青葉通りは100万球の光の葉が芽吹き、心を和ませてくれます。

メインテーマは「トータルケアの原点に戻るー子供と家族の継続的支援」といたしました。日本小児血液学会、日本小児がん学会、がんの子供を守る会との同時開催4年目となります。

今回は、2008年小児がん学会の細谷亮太会長と連携して、「トータルケアの原点に戻る」を2年連続のテーマとし、2007年は特に「子供と家族の継続的支援」をサブテーマとして掲げ、長期経過観察とケアの重要性を検討する予定です。現在準備会では、特別講演、教育講演、シンポジウム、一般演題発表を企画しております。2007年1月にはホームページを開設いたしますので、下記URLをご参照いただきたくご案内申し上げます。企画が決まり次第、順次詳細を公表いたします。

ぜひ冬の仙台においていただき、有意義な時間をお過ごしください。運営委員一同が精一杯努力して開催の準備をすすめてまいります。会員の皆様方の演題の

ご応募、ご参加をこころよりお待ち申し上げます。

第5回日本小児がん看護研究会会長

塩飽 仁(東北大学医学部保健学科看護学専攻)

学会ホームページ:

<http://www.congre.co.jp/2007gan-ketsueki>

終末期がん看護国際ワークショップ

千葉大学大学院看護学研究科では、平成15年度より21世紀COEプログラム「日本文化型家族看護の創出・国際発信拠点ー実践知に基づく看護学の確立と展開ー」に採択され、研究を重ねて参りました。この度、研究成果の一部を、終末期のがん患者と家族に関わっている専門職の方にお伝えするとともに、看護実践に有用なモデル作成に向けて、皆様と一緒に検討したいと考え、ワークショップを企画いたしました。グループ討議においては、「小児看護グループ」と「成人・訪問看護グループ」に分かれて行ないますので、終末期の小児がんの子どもと家族の看護実践モデル作成に向けて、会員の皆様のご参加をお待ちしております。詳細につきましては、千葉大学看護学部ホームページをご覧ください。<http://www.chiba-u-21coe.jp/event02.html>

終末期がん看護国際ワークショップ

ー日本文化を反映した終末期がん看護実践モデルの作成にむけてー

日時：平成19年2月19日(月) 9時～17時

場所：千葉大学看護学部

参加費：無料

申し込み方法 平成19年1月31日(水)まで

・ 下記事項をご記入の上、FAX またはメールでお申し込み下さい。

①お名前 ②ご所属 ③連絡先住所と電話番号

④討議参加グループ(小児/成人)

申し込み・問い合わせ先:COE 事務局 石松

FAX:043-222-7330

E-Mail: yhk@office.chiba-u.jp

第39回SIOP (国際小児がん学会)

期日：平成19年10月29日～11月3日

会場：National Center for Performing Arts

ボンベイ(Mumbai),インド

抄録締切り：平成19年4月15日

第39回は、アジアでの開催になります。40回はドイツの予定です。学会についての詳しい情報は学会ホームページをご覧ください。<http://www.siop2007.in/> 学会に関連した企画に関しては、次回のニューズレターにてお知らせできるかと思います。

日本小児がん看護研究会機関誌編集係

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学看護学部 小児看護学教育研究分野

小川純子

E-mail: junogawa@faculty.chiba-u.jp